

令和5年度 岩国市立由宇小学校 学校評価書

校長(永田 啓子)

1 学校教育目標							
<p>教育目標……夢や希望をもち、主体的に学び、たくましく伸びていく由宇っ子の育成 ～自立と協働をめざした「つながり」教育の推進～</p> <p>中・長期目標…○キャリア教育の推進 → 将来真に社会で自立する力の基盤づくり ○コミュニケーション能力の育成 → 将来社会で協働できる力の基盤づくり</p>							
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)							
<p>主体的な学びの育成については、関わり合いのある学習やICT、やまぐち学習支援プログラム等の活用が定着し、成果を上げつつある。今後も家庭学習や個別学習のさらなる充実を図ることによって確かな学力を身に付けさせたい。安全面においては登下校や校内の歩行に課題が見られ、挨拶とともに家庭、地域と連携し、全教職員の共同実践を継続していく必要がある。問題行動や不登校等についての情報共有はできており、未然防止に向けた組織的な対応を継続していきたい。たくましい体については、家庭と連携したメディアコントロールの取組をこれからも充実させていきたい。コミュニティ・スクールの取組はユニット型の研修やプロジェクトにおいて推進が図られているが、コロナ禍において見送っていた交流の機会を積極的に展開していき、より開かれた学校づくりをめざしたい。教職員の協働意識は高く、今後もよき伝統として引き継がれていくとよい。多忙感の軽減と時間外勤務時間の削減に向けて、具体策を講じる必要がある。</p>							
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題							
<p>(1)「主体的な学び」プロジェクトの推進…「学び」とのつながり ①学びの質の向上 ②学びの姿勢と家庭学習の徹底  (2)「豊かな心」プロジェクトの推進…「他者」とのつながり ①相手意識と礼儀(挨拶・姿勢・言葉遣い)の向上 ②時間厳守・黙動・安全な登下校  (3)「たくましい体」プロジェクトの推進…「生活」とのつながり ①家庭と連携したよい生活習慣の育成 ②体力向上の取組の充実  (4)地域と共にある学校づくりプロジェクトの推進…「縦」のつながり(園小中連携)「横」のつながり(地域連携)  ①地域資源(ひと・もの・こと・情報)の積極的活用 ②小中一貫教育及び園小連携の推進  (5)働きやすい職場づくりプロジェクトの推進…「社会」とのつながり ①情報共有と協働支援体制の充実 ②業務改善の取組の推進</p>							
4 自己評価							5 学校関係者評価
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	取組状況および成果・課題	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等
主体的な学び	①学びの質の向上	・「関わり合い」と思える授業作りの工夫 ・困り感に寄り添う支援の充実	教えてアンケートの平均値 4:平均値80%以上 3:平均値60%以上 2:平均値50%以上 1:平均値50%未満	肯定的な意見が多いが、自信を持って「学習に手応えを感じた。」と言えない児童も3割以上いる。授業者の手応えとずれがあることから、授業改善の余地がある。	3	授業者は、子どもとの意識のずれが生じた原因を考え、授業改善に努めている。「これまでの取組から自身の課題を確認し、その解決に向けて新たな取組を試したい。」と、授業者自身は意欲を高めている。	子どもの実態を把握し授業改善に取り組んでいる様子が見える。更にきめ細かな実態把握に努めてほしい。意識のずれは重要である。ずれの要因の中に子ども間にも意識のずれがないかの確認が必要かもしれない。ずれをできるだけ解消してほしい。「わかる子」「わからない子」の差を少なくできるように努めてほしい。
	②学びの姿勢と家庭学習の徹底	・児童の実態に応じた家庭学習の準備 ・学期に1度の振り返り	児童・教職員アンケート2項目の平均値 4:平均値80%以上 3:平均値70%以上 2:平均値50%以上 1:平均値50%未満	由宇小スタンダードを確実に身に付けさせようという教員の高い意識のもと、指導を進めてきた結果、年度当初と比較して学習規律が身に付いてきている。家庭学習においても、宿題忘れが減り、児童は宿題を継続したことで学習が定着し、よい結果を得られることを経験し、好循環が生まれている。	4	今後も、毎学期の振り返りを継続し、声掛けを続けている。できることが増え、肯定的な声掛けをする機会がさらに増えてきている。その結果、学級の雰囲気もさらによくなった。この好循環を継続できるようにしたい。	
豊かな心	①相手意識と礼儀(挨拶・姿勢・言葉遣い)の向上	・挨拶レベルに応じた挨拶の仕方の工夫 ・丁寧な言葉遣いを意識できるよう言語環境を整える。	児童・保護者・教職員アンケート10項目の平均肯定率 4:平均肯定率90%以上 3:平均肯定率80%以上 2:平均肯定率50%以上 1:平均肯定率50%未満	挨拶については、毎月1回の生活委員会と民生委員さん合同の挨拶運動、児童集会での運営委員会による取組を行った。ふれあい班活動での上学年の挨拶が下学年のよい手本となり、集会後も自分から挨拶をする児童が増える等児童の意識に変化が見られた。保護者の評価は前期とほとんど変化していない。	3	児童の肯定的評価は前期より減少している。各学級で自分の挨拶について振り返ったり、挨拶のよさについて話し合ったりしたことで、意識が変化してきたことが考えられる。その都度価値付けを行い、学校全体に広めていきたい。	以前に比べて子どもたちの元気な挨拶が聞けるようになった。力を入れて指導している成果だと思う。「ただ挨拶しよう」というだけでなく「なぜ必要なのか」を考えたことが成果につながっているのではないだろうか。
	②時間厳守・黙動・安全な登下校	・1分前着席、30秒間黙動 ・黙動の徹底 ・生活委員会の活動	児童・保護者・教職員アンケート9項目の平均肯定率 4:平均肯定率90%以上 3:平均肯定率80%以上 2:平均肯定率50%以上 1:平均肯定率50%未満	各学級で授業前の1分前着席、30秒間黙動に取り組む、ほとんどの児童ができるようになってきている。黙動についても各学級で取り組んできたが、教室移動や一斉下校等集団での移動の仕方については課題がある。	3	黙動・時間厳守の肯定的評価は9割である。黙動についての肯定的評価は、児童が高く、教職員とはずれがある。児童が主体的に活動する委員会と協働し、黙動の徹底を行ってほしい。	規律が守られていることはとてもよいことである。よい成果がある一方で課題も残されている。よい行動が広がることを願っている。
たくましい体	①家庭と連携したよい生活習慣の育成	・我が家のメディアルール ・元気週間(学期1回) ・メディアアンケート	児童・保護者・教職員アンケート8項目の平均肯定率 4:平均肯定率90%以上 3:平均肯定率80%以上 2:平均肯定率50%以上 1:平均肯定率50%未満	由宇地区4校で共通した合い言葉「早起き早寝朝ご飯、メディアはちょっと、お家で運動」をもとに元気週間の生活チェックに取り組んだ。また、メディアとの関わりを親子で考える機会を年間を通じて度も設けた。元気週間の間は、睡眠時間や朝食を意識して取り組んでいる児童が多いが、バランスを考えて3色摂取できている児童は半数である。	3	生活習慣改善に努めているという保護者・児童の肯定的評価が80%であった。メディアの約束が守れているは前年度の60%未満からは80%に大きく前進したが、今後も継続的にメディアコントロールへの取組が必要である。	メディアコントロールは家庭の協力が大きく関わっているため難しいけれど好転していることは素晴らしい。これが長期に続くことを願う。家庭と一緒に取組むことは保護者の意識改革につながる。ICTの推進とメディアコントロールの両立は難しいと感じる。有効な使い方や害を身近な事例で知らせるためのよい。体力向上への意識も高まっている。
	②体力向上の取組の充実	・ドラえもん体操 ・おうちで運動 ・縄跳び運動	児童・教職員アンケート3項目の平均肯定率 4:平均肯定率90%以上 3:平均肯定率80%以上 2:平均肯定率50%以上 1:平均肯定率50%未満	新たに始めた体力向上維新プロジェクトによる組織的な取組の1つ「お家で運動」を毎日の宿題にし、学校でも家庭でも継続的に運動するように取り組んだ。結果、巧みな動きが身に付き、骨折等の大きな怪我をする児童が減ってきた。	3	体力向上への取組は、保護者・教職員とも肯定的評価が90%と高い。児童は、体育科の授業や休み時間に生き生きと体を動かしている現状がある。	
地域と共にある学校づくり	①結愛ネット(ひと・もの・こと・情報)の積極的活用	学力向上や心身の成長に向けて積極的に地域資源を活用する。	結愛ネットの人材活用人数 4:のべ150人以上 3:のべ100人以上 2:のべ80人以上 1:のべ80人未満	地域人材や物的資源を活用し、児童に地域の良さを味わわせる教育活動に取り組み、学校評価の結果からも児童の地域への興味関心も高まっている。学校・地域連携カリキュラムを見直し、整理・統合を図ることを持続可能なカリキュラムの作成に努めたい。	3	のべ人数では、1学期306名(水泳184名)、2学期118名となり、1、2学期ともに100名を超えるボランティアの方に協力いただいている。アンケート結果から子どもたちも、地域の方との学習や地域の学習を楽しみにしていることがわかる。	結愛ネットの活動が定着してきている。地域と連携した取組が年々増加し深まりも増えているように思われる。中学校、園との交流も成果が見られる。連携することで双方にとってよい効果が生まれている。交流によって1年生は自信を持ち、園は互いを知る一歩となった。地域に見守られているという実感はもう少し成長してからかもしれない。
	②小中一貫教育及び園小連携の推進	他校の児童や生徒、園児等との交流の機会を充実させる。	生徒、園児との学習を楽しんでいる児童 4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	6年生は、子どもの学びプロジェクト会議やクラスマッチで交流を深めた。また1年生は、3園からの園児の訪問により、交流を図った。年度当初から年間行事予定に位置付けたことが効果的だった。今後は計画的に実施することで交流の質を深めたい。	3	肯定的な回答が84%となった。園小の交流により低学年を中心に肯定的な回答が増えた。中学校区における小中、園小の交流が推進されていることがわかる。	
働きやすい職場づくり	①協働支援体制の充実	主任会や終礼等で情報共有と共通理解を図り、指導を充実させる。	協働体制ができていると感じる職員 4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	生徒指導事案では、生徒指導メモにより関係職員、担当、管理職と迅速に情報共有し、適切な初動・初期対応につながっている。今後は、さらに終礼等で積極的に周知し、全教職員で指導する体制を充実させ、担任の負担を軽減していくように努めたい。	4	肯定的な回答が100%となった。担当が、課題を一人で抱えることなく情報共有し、協働支援体制が構築されている。	応答メッセージ対応は効果が表れている。課題を共有し協働支援により教職員の負担が軽減できれば安心して仕事ができるのでよい。計画的に仕事を進めることは難しい問題だと理解している。頑張ってもらいたい。労働過多により先生がつぶれないかが心配になる。効率化すると他の事案が出てくることもあるので検討の余地はある。
	②業務改善の取組の推進	ICT等を活用し、業務時間の短縮を図る。	教職員アンケート2項目の平均肯定率 4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	各分掌や学年で各種行事や内容の精選・簡素化を積極的に行った。また2学期から開始した応答メッセージ対応電話の導入も業務改善につながっている。見直しをもった業務遂行により、さらに業務改善を進めたい。	3	2項目の平均肯定率77%であった。複数教員での協力分担については、肯定率は90%と高い評価となった。効率よく計画的に仕事を進めるについては、肯定率65%とやや低い結果となった。	
6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
<p>○主体的な学び:年間を通して、朝学習の充実、やまぐち学習プリントの活用、由宇小スタンダードの取組、タブレットの効果的な活用ができた。課題は、伝え合う力の育成と学習内容の定着である。</p> <p>○豊かな心:挨拶や交通安全、公共施設の利用のマナー等について保護者や地域とも情報共有し、未然防止や積極的対応に努めた。挨拶集会を行ったことで、自分から挨拶をする児童や気持ちのよい挨拶が増えた。</p> <p>○たくましい体:「元気カード」(早起き・早寝・朝ご飯・メディアはちょっと・お家で運動)、メディアアンケート等に継続して取り組んだ。毎日の宿題「お家で運動」を推進し、巧みな動きが身に付き骨折等の大きな怪我が減った。</p> <p>○地域と共にある学校づくり:コロナ禍で停滞していた様々なつながりを再開していくことで、中学校区での交流が活発になり地域への愛着が深まった。協応応援団への要請や、他校との連絡調整についての配慮が必要である。</p> <p>○働きやすい職場環境:緊急の対応が必要な事案に対して、円滑な情報共有により、家庭・地域・関係機関等と迅速に連携して解決を図ることができた。業務改善については、時間外勤務時間が減少し改善傾向にあるが、計画的な業務遂行が課題である。</p>							
7 次年度への改善策							
<p>○日々の授業改善、由宇小スタンダード・朝学習・やまぐち学習支援プログラム・もくもく週間の実施を継続し、基礎基本の定着を図る。自分の考えに自信を持つことや発言への抵抗感軽減のために、授業場面で対話を仕組む。</p> <p>○教職員も児童も丁寧な言葉で関わり、他者理解やいじめ防止に向けて「自分がされて嫌なことはいじめ防止に向けて取り組む。児童が主体的に活動する機会(ふれあい班)や場(児童集会)を計画し、委員会活動との連携を継続する。</p> <p>○年間を通してメディアとの付き合い方を親子で考える機会を設ける。我が家のメディアルールや元気カード、保健便り等の取組を継続する。外遊びの奨励やお家で運動を継続し、運動の楽しさの体験と体力向上を図る。</p> <p>○小中一貫教育及び園小連携では、年度当初から年間行事予定に位置付け、主任間での連携を密にし計画的に実施することで、交流の質を深めるように努める。</p> <p>○各分掌・学年での事業や行事等を早めに立案し起案するように努めることで、会議時間の削減とゆとりのある連絡調整を行い、円滑な企画運営の推進を図る。</p>							